

トマト青枯病防除に高接ぎ木苗が有効である

野菜花き試験場

1 技術の要約

トマト台木の本葉第2葉以上の節位に接ぎ木した高接ぎ木苗により、トマト青枯病を防除できます。高接ぎ木苗によるトマト収量への影響はなく、化学合成農薬に依存しない環境にやさしい防除技術になります。

2 技術の内容

トマト青枯病は難防除の土壌伝染性病害で、温暖化により増加が懸念される病害です。これまでの子葉上に接ぎ木した慣行接ぎ木苗よりも、高い位置（本葉第2葉以上）で抵抗性台木に穂木を接ぎ木した高接ぎ木苗の実用性を評価しました。高接ぎ木苗は、慣行接ぎ木苗よりもトマト青枯病に対して防除効果が高く、収量や品質は慣行接ぎ木苗と同等であることを明らかにしました。



トマト青枯病
(発病すると株が急速に萎凋、枯死します。)



慣行接ぎ木苗（左側）と高接ぎ木苗（右側）
(接ぎ木位置：➡)

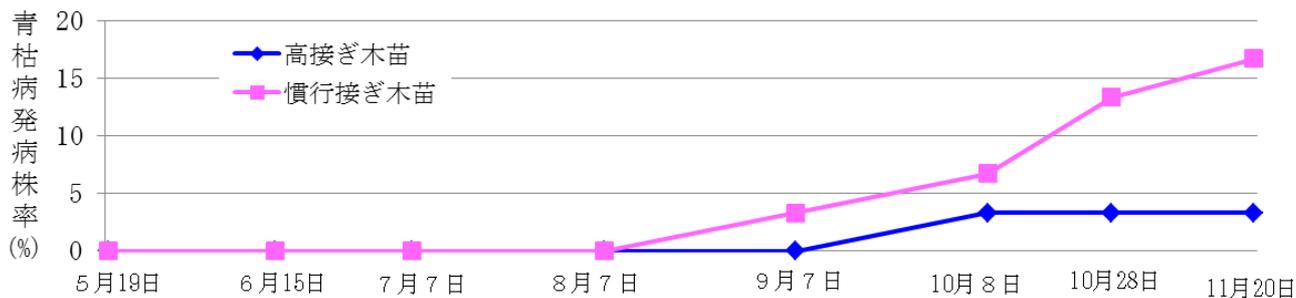


図 高接ぎ木苗と慣行接ぎ木苗の青枯病の発生推移（平成 27 年）